

仮想アースの検討(12)(HP 収載)
ーコンデンサー抵抗の活用(12)ー

1. 始めに

前報(11)に引き続き、コンデンサーをムジカライザーML-6のマイナス端子に接続する効果を調べます。

2. コンデンサーと抵抗の試聴方法

今回の対象は、JBL4350Aに使用しているムジカライザーML-6のマイナス端子で、抵抗は使用しません。

現在のJBL4350Aの最新の構成は[JBL4350Aの再構成\(4\)](#)で報告しています。

また、自作の仮想アースの効果を[仮想アース Crystal Eの導入\(23\)](#)で報告しています。

電解コンデンサーをムジカライザーML-6のマイナス端子に接続することは、FAL C90EXWのムジカライザーML-6において[前報\(10\)](#)で報告しており、A氏邸のシステムでも[A氏邸訪問記\(2023.3.22\)](#)で報告していますので、今回はこれに倣って実施することになります。

JBL4350AのムジカライザーML-6は、マルチアンプシステムのツイーターからミッドバスの入力端子とダブルウーファーの入力端子に使用しており、片チャンネルあたり2セットありますので、これらのマイナス端子に10000 μ Fの電解コンデンサーを接続します。同時にML-6の入力側の接続をバナナプラグに替え、電磁波吸収テープNRF-005Tの効果も試してみます。

音源はSTAGE+とアナログ盤から選択します。

3. コンデンサーと抵抗の試聴結果

第一段階として、ツイーターからミッドバスの入力端子にセットしたML-6の接続にバナナプラグを使用し、かつML-6のマイナス端子に電解コンデンサーを接続しました。バナナプラグはFAL C90EXW用のSPA-7で使用していたものを流用しました。



第一段階の確認として、STAGE+からリサ・パティアシュベリ他のシューベルトのピアノ重奏曲「鱒」を聴いてみました。ピアノの響きやコントラバスの音階は、以前と同じですが、パティアシュベリのストラディヴァリウスエングルマンの艶が少し乗ってきたような印象です。

第二段階は、残りのダブルウーファーの入力端子にセットした ML-6 の接続にバナナプラグを使用します。このバナナプラグは新たに追加購入し、同様の接続を行い、かつバナナプラグのマイナス端子側に電解コンデンサーを接続します。さらに、今回、第一段階のバナナプラグも含め、マイナス側のバナナプラグ計 4 個に電磁波吸収テープ NRF-005T を巻いてみます。



第二段階では、まず STAGE+からリサ・パティアシュベリ他のシューベルトのピアノ重奏曲「鱒」とマウリチオ・ポリーニのベートーヴェンの後期ピアノソナタを聴いてみました。

シューベルトの「鱒」は、第 1 段階に比べて、ピアノの響きやコントラバスの音階が明瞭になり、パティアシュベリのストラディヴァリウスエングルマンやヴィオラやチェロの艶がさらに乗ってきた印象です。

ベートーヴェンのピアノソナタは、ポリーニの弾く Fabbrini の打鍵のアタック感と余韻、共鳴弦の響きが明瞭になっています。

アナログ盤では、下記を試聴しました。

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

EMI AA 9117・C

フリードリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

ワーグナーのワルキューレは、オーケストラの分離が向上し、ソプラノやメゾソプラノの歌唱が明瞭になるので位置関係が把握しやすくなります。

ヘンデルのメサイアは、ソプラノやバスが伸び伸びと歌い、弦の艶が増し、通奏低音がクリアーになり、合唱の濁りが後退しています。

4. まとめ

JBL4350A のムジカライザーの入力をバナナプラグ接続に変更し、マイナス側にコンデンサーを接続し、バナナプラグに電磁波吸収テープ NRF-005T を巻く効果を認めました。

以上